

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	認定 NPO 法人国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター
活動テーマ	電話相談ボランティア、自死遺族のわかちあいスタッフの他団体交流研修



全国有数の自殺多発地の一つである三段壁がある和歌山県白浜町で活動する NPO 法人白浜レスキューネットワークは、三段壁に「いのちの電話」の看板を設置し、現地の公衆電話や全国から追い詰められて死にたいほどつらいという自殺念慮者の電話相談を受けている。また定期的に三段壁をパトロールして自殺念慮者を保護し、投身自殺を未然に防止するとともに、保護した自殺念慮者と共同生活を営みながら新たな仕事を確保し経済生活の安定に努めている。このような熱意ある取り組みの実態に接し、自殺防止のために電話相談を聴いている当センターの今後の活動に活力を得るため、平成 29 年 9 月 17～18 日、白浜町を訪れ、活動に触れた。

自殺念慮者の支援方法は多様で、支援者側が決めて押し付けるものではない、ということ改めて認識した。自殺を決めた理由は様々であり、死にたい気持ちと生きたい気持ちが入り交じり、生きづらさに押しつぶされそうになり、決行に至ってしまうのであり、その心のうちは揺れ動いている。相談員は助言や評価ではなく、自殺念慮者のありのままの心のうちに寄り添うことが大切である。支援に正解といえるものはなく、白浜レスキューネットワークにおいて保護されてよかったと支援者は思うが、自殺念慮者にとっては自殺決行の原因となった問題は解決しておらず、助けられて生きていることは、再び苦しい現実の中に置かれるのであり、そこから逃げ出したいとか、より確実に死ぬる方法を探すことになる。支援する側にわからないことは多くあるが、わからなくても寄り添い続けると伝えることが大切である。この姿勢に共通点があり、力づけられた。